

城 (Balmoral Castle) は郡の西南部にあり、アバデーン市附近のバックスバーン (Bucksburn) にはローウェット・インスティテュート (Rowett Institute) と稱する動物性營養物研究所がある。全郡の人口三十一萬。

文學的關係に於ては詩人バイロン卿 (Lord Byron) は一七九〇年二歳の時母に連れられてアバデーン市のブロード・ストリート (Broad Street) に來り十一歳になるまで住んでゐた。

母は郡内のガイト (Gight) に住むゴルトン (Gorton) 家から出た人であつた。大學に關係を有した文學者ではジェームス・ビーチ (James Beattie) 一七三五一八〇三) と稱ぶ哲學者兼詩人が居りマリシャル・コレツチ (Marischal College) で教育を受けた。小説家トバイアス・スモレット (Tobias Smollett 一七二一—七一) は同大學の醫學博士であつた。郡出身の小説家にはウィリアム・アレキザンダ (William Alexander 一八二六—九四) が居り、デオーチ・マクドナルド

(George MacDonald) が居る。

アバダフ (Aberdour)。蘇格蘭のファイフシア (Fifehire) 郡にある村、L・N・E 鐵道によつて十八哩でありエディンバラの西北に當りファース・オヴ・フォース (Firth of Forth) 河畔にあつて海水浴場である。アバダフ城 (Aberdour) の遺趾はモルトン (Morton) 子爵の舊居城であつた。人口三千餘。

新著紹介

○鑛物學概論

木下龜城 青山信雄共著 菊版横書三一

四頁 古今書院發行 昭和八年二月 定價二圓五〇錢

「鑛物學」の著者に依つて書かれた簡潔版である。幾何學的結晶學、物理的鑛物學、化學的鑛物學、鑛物の生成及び産出狀態、鑛物各論の五編に分たれ、卷末に一般索引の外に鑛物名(英)索引が附けられてある。挿圖三四二圖。初學者に比較的難解な結晶學、結晶光學は本文二九〇頁中約九〇頁を費して懇切に説明してあり、其他の物理性、化學性、生成産狀等の初學者に必要な常識を頗る簡潔に述べてある。最後の鑛物各論は全卷の過半部を占め重要な鑛物を網羅して各數行乃至數頁を費して要領良く記述されてある。我國に産する鑛物

にあつては極めて稀に顯微鏡的に知られるに過ぎない種類までも最新の資料を參考して産狀產地等を記載してあることは今まで出版された類書に見ない特徴である。高等學校程度の學生の好參考書であり又一般鑛物愛好家の座右に備へて鑛物學の常識を得るに好適である。(ハル)

○革命の印度

印度志士ボース著 東京木星社發行
定價一圓四十錢

四六版四百二十八頁、略綴の中冊子である、印度の民心がいかに反英的であるかを解せんとする人には、絶好の良參考である。(藤田)

○略圖練習二百題

香川幹一著 古今書院發行
定價一圓二十錢

地理教授に際し塗板の上に簡單な略圖をさらさらとかいて説明するといふことは氣持のよいものであり、教授者のためにも被教授者のためにも都合のよいことであるが、香川君のこの小冊子は、さうした教授者に與へるよき參考であらう。(藤田)

○日本郷土景觀通説

耕崎正男著 古今書院發行
定價一圓二十錢

四六版一七〇頁の小冊子ではあるが、日本郷土の各地方を細別して地區別に景觀を記したものである、著者の眞摯な態度を喜んで推奨する。(藤田)

○新地理教授法

中島東次著 東京有文館發行

定價一圓五十錢

四六版二百二十六頁の小冊子である、地理學の發達、人文地理科の文化概念、地理教授法の三篇から成立し第四篇に地理教授の實際といふ章を設けて實例によつて説明が加へられてゐる、最後に尋常小學地理書の取扱といふ附録がある。(藤田)

雜報

○廣島の縫針

縫針は廣島縣下の特産で、他に内國品の競争がない、これを製造する所は

飛馬印 廣島市田村工業株式會社

萬年青印 同中田太一工場

平和印 岡山本工場

美人船印 同中田傳次郎工場

漢大利印 同青木瀧次郎工場

などが主なもので、飛馬印が最優であつて、昭和六年漢口に輸入された丈でも約四億本、二十萬海關兩に達した、競争者はドイツのハンタリーであるが、日下の割合は日本品九割ドイツ一割である、ドイツ品は日本品と品質に於て優劣がないけれども、ハンタリーなどは日本品の四倍の値段である、其他は日本品よりも遙に劣等で、値段は二倍であるから、ここで日本品がきざれば縫針では覇をとなへられる、不幸にし